

# SUPER 耐久シリーズ 2013

## 第6戦

### 鈴鹿サーキット



東 徹次郎

TOHJIRO AZUMA

試行錯誤しながら熟成の進んできたマシンバランス！！

スプリント決戦で悔しくも価値ある3位入賞！！

- ・開催サーキット：鈴鹿サーキット(5.807km)
- ・チーム：TRACY with KOTA RACING
- ・マシン：TRACY SPORTS IS 350
- ・メンテナンス：TRACY SPORTS
- ・カーナンバー：#39
- ・クラス：ST-3
- ・ドライバー：A 兵頭 信一 **B 東 徹次郎** C 橋本 達也



## 予選（9月21日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

今回はスプリント3レースということでいつもと違い、レース1はBドライバーの予選タイム、レース2はAドライバーの予選タイム、そしてレース3がA・B合算での予選タイムというものでした。

事実上この予選で初めてNEWタイヤを履いたのですが、アタックは計測3周と考えてコースインしました。

鈴鹿はコースが長いですし今回も気温が高かったので、早ければ1周目でタイヤのグリップのピークが来るかなと予想していたのですが、思いのほか‘ここだ’って感触が無いままでした。

むしろ前日の最後のマシンバランスよりも悪化している傾向で少し乗りづらい印象でした。

おそらくNEWタイヤになってリアのグリップが上がったことから、高速コーナーの進入時にステアリングでの初期の反応以降のマシンの動きがアンダーステアになっていました。

また、スプーンコーナーでは右フロントに荷重が乗りすぎて、左後ろタイヤのリフト量が増えてトラクションのかかりが悪くナーバスな動きでアクセルを開けていきづらい傾向でした。

2周目、3周目も思ったほどのグリップ感が無いまま過ぎていき、その後もクーリングラップを入れて一度タイヤを冷ましてから再度ラストアタックへ向かったのですが、苦戦しながらタイムの更新は出来ず、結局クラス5位で予選を終えました。

**A ドライバー予選タイム：2'20.420 総合19位（クラス8位）**

**B ドライバー予選タイム：2'19.280 総合16位（クラス5位）**

**C ドライバー予選タイム：2'21.857 総合10位（クラス4位）**



## 決勝（9月21日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

今回自分は土曜に開催されたレース1の方で走ることになりました。

Bドライバー予選のタイムで予選順位が決まるレース1、39号車にとってはこのレースが一番良いグリッドからのスタートでしたので、ポイントを少しでも多く獲得する為にも自分が走ることになりました。

予選でのアンダーステアから、決勝はエンジニアと相談してリアのセットを若干変更して臨みました。

コースインラップで最後の確認をしましたが、予選よりフロントの応答性も良いですし、スプーンコーナーでリアの動きが良いのをしっかりと感じ取ることが出来ていました。

そして40分のスプリントレースが始まっていきます。

2周のフォーメーションラップが終わる直前、バックストレートに入るときに無線が入ります。

スローダウンしているST-4クラスのマシンがいるから気を付けろと。

しかし自分がシケインに入るときにピットへ戻るとまた無線が入ったので、これで完全にガチンコでスタート出来るなと感じていました。

ところが、このスロー車両が前のGT3クラスのマシンたちの間にいたらしく、スロー車両がピットへ入ってから前と広がってしまった差をつめようとみんなが加速したので、結局隊列が整っていないまま自分たちはシケインからフル加速状態でしたので完全に意表を突かれた感じでした・・・。

特に自分たちは前の状況が見えなくてわからないままでしたし・・・。

しかしながらポジションがキープして1コーナーを迎えました。

前の15号車より自分の方がペースも速かったので、早くこの15号車を攻略して前を追わなければと感じていましたが、1周目、2周目とプレッシャーは与えるものの抜きに行くことが出来ません・・・。

逆に後ろの38号車も自分を狙っているので、非常にやりづらい状況でした。

しかし3周目のスプーンコーナー出口で合わせ、38号車も真後ろに来てはいましたが15号車のスリップストリームに入ります。

130Rでピッタリ背後に着き、もうここしかないと思っていましたのでシケインでインに車を振り、ブレーキングで一気に追い抜きに行きました。

狙い通りのパッシングでした。

そしてこのスキをつけて、チームメイトの38号車も15号車の前に出ていました。

今度は前を追いながら 38 号車とのテール・トゥー・ノーズな展開です。  
ここで問題が発生してきます。

2 速が入りづらい……。

シフトダウンで 2 速に入れたときに入っている感覚が無いのと、目一杯入れるつもりでシフト操作しないと弾かれるようになってきたのです。

しかしここで運が向いてきます。

1 コーナーに入っていくときにトップだったはずの 34 号車がスロー走行。

これを抜いて 3 位へポジションアップです。

そしてそのまま S 字コーナーへ入っていき、逆バンクに差し掛かると今度は 14 号車がスロー走行していたのです。

これで 2 位と思った矢先、ダンロップコーナーを駆け上がるインサイドに 14 号車がいたので仕方なくラインを 1 本外したアウト側から追い抜こうとしたら、路面の汚い部分に乗ってしまい一気にマシンがアウトへ持っていかれました。痛恨のミスでした。

このロスで 38 号車に並ばれ、デグナーコーナーまでに前に出られてしまって再び 3 位のポジションへ。

この直後、他車のクラッシュなどでセーフティーカーがコースへ入ります。

レースの半分はここからセーフティーカーランでした。

このスロー走行中も 2 速を温存してずっと 3 速と 4 速で走行していたのですが、試しに入れようとするとうちに 2 速は無くなりかけていると言えるくらい、入りづらくなっていました。

セーフティーカー後は残り 3 ラップほどでした。

しかし 38 号車を抜き返すことは出来ず、結局 3 位のままチェッカーとなりました。

翌日のレース 2 は兵頭選手が走り、クラス 7 位・

レース 3 は橋本選手が担当し、クラス 5 位でした。

**決勝結果：クラス 3 位 (16Laps)**

**39 号車ベストタイム：1'21.355**

**ST-3 クラスファーステストラップ：1'19.834**





## 反省

今回予選での反省点は、一発のタイムを出しに行くときのシフトアップ時のエンジン回転数が低かったことです。

38号車のドライバーとデータロガーで比べると、コーナーでは速かったのにスプーンコーナー出口からバックストレートの上りのシフトアップで自分の方が回転の引っ張りが足りないので、シケインまでで0.7秒もロスしていました。エンジン自体がオーバーレブに弱いので気にかけてはいたのですが、これはロスし過ぎなので今後は本当に気をつけなければいけません。

レブリミッターが付いているにも関わらずそれを活かせていないので、自分のミスですね。

そのせいで前半部分、自分で稼いだマージンを後半の高速セクションで失ってしまっていますからね。

決勝ではやはり14号車を抜いたときにラインを外してしまって38号車に抜かれてしまったことが悔やまれます。

ちょっとタイミングをズラして抜きにかかれば、苦しいラインで抜かなくても大丈夫でしたからここは自分の判断ミスでした。

狙っていた1周目では抜けませんでした。15号車を自分のイメージ通りに完璧に抜けたことは良かったと思います。

あとは、今回自分がセットアップを主に担当させてもらったのですが、まだ的確にここをこうしてくれとは言えないまでも、マシンの挙動をしっかりと伝えることは出来てきたと感じます。

それによってエンジニアが新しいセット提案してくれてそれを試し、またコメントしての繰り返しでだいぶ仕上がってききましたので。

だからこそ今回どうセットを変えたらどう動きが変わったなどの経験をしっかりと自分のモノにしていかなければと感じています。

実際に兵頭選手や橋本選手も乗りやすくなったと言ってくれ、タイムにも表れていた。自分の自信になりました。

しかしながら、予選も決勝もペース的にはもっと速くしていかなければ勝ちは見えてこない。マシンのセットアップも自分の更なるスキルアップも、次回の課題にしていきます。

## 最後に

今回は佐々木孝太選手が富士でアジアン・ル・マン参戦ということで、自分にチャンスを戴けました。

チャンスをくださったチームに本当に感謝したいと思います。

そして今回もサーキットに足を運んでくださった方々をはじめ、たくさんの応援本当に有難うございました。

実は自分は今まで鈴鹿とは相性が悪いのか、マシンが乗る前に壊れたりして走らないで終わることなどが多かったのですが、今回は全セッションしっかりと乗れて本当に安心しましたし、そのジंकスを打ち破ることが出来ました。

今年の SUPER 耐久も早いもので残りはあと 1 戦となりました。

39 号車の今年の最上位は前回岡山の 3 位、そして今回の自分のリザルトである鈴鹿の 3 位なので、最終戦（11 月 9&10 日）のオートポリスは優勝して気持ち良く終われるよう、全力で頑張ります。

どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2013 年 9 月 25 日

東 徹次郎

